

## 能・狂言の歴史に触れる

担当教員：小助川元太

### 1. 授業の概観

日本芸能史は、学校教員養成課程国語教育専修の国文学分野の選択科目であり、また、総合人間形成課程国際理解教育コースの日本アジア理解分野の選択科目でもある。本授業では日本の代表的な古典芸能であり、和の文化を象徴するものの一つである能狂言にテーマを絞り、渡来芸能としての散楽から徳川幕府に式楽として保護されるまでの、猿楽能の史的展開を辿ることにした。

国語の新しい学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されることになったが、このような流れの中で、以前は参考程度に教科書に掲載されてきた〈柿山伏〉などの狂言台本も、新しい検定教科書では授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生には、能狂言に関する正しい知識を身につけさせる必要があると考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

#### 【授業の目的】

能狂言の形成・展開を学び、テキストを読解することによって、日本を代表する芸能を深く知り、和の文化を見直すきっかけとする。

#### 【授業の目標】

1. 能狂言に関する基礎知識を身につける。
2. 能狂言が他のジャンルの芸術に及ぼした影響を説明することができる。
3. テキストの読解を通して、能狂言に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

#### 【授業の進め方】

1. 能狂言の歴史について  
テキスト（石井倫子『能・狂言の基礎知識』）を用い、適宜補足資料を配付して講義を行う。
2. 作品講読  
能の台本（謡曲）を読む。
3. 作品の鑑賞

舞台上で演じられた能・狂言を DVD で鑑賞する。

#### 【実際の授業内容】

- 第 1 回：ガイダンス。授業の進め方の説明。
- 第 2 回：散楽から猿楽へ
- 第 3 回：翁猿楽について
- 第 4 回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
- 第 5 回：猿楽の伝承（『風姿花伝』神儀云）
- 第 6 回：南北朝期の芸能界と観阿弥登場
- 第 7 回：観阿弥の大改革・〈自然居士〉
- 第 8 回：世阿弥と義満
- 第 9 回：観世座大夫としての世阿弥
- 第 10 回：義持と世阿弥・〈忠度〉
- 第 11 回：義教と世阿弥
- 第 12 回：元雅・〈隅田川〉
- 第 13 回：音阿弥と金春禅竹
- 第 14 回：金春禅竹・〈定家〉
- 第 15 回：試験・戦国～江戸の能狂言

#### 【成績評価】

試験（60%）、レポート（20%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

### 2. 授業評価法

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（17 名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3 について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

### 3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？  
ア 真面目に取り組んだと思う。（7 名）  
イ ときどき集中していなかったときもあった。（10 名）  
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはい

えない。 (0名)

## 2. 授業内容は理解しやすかったですか？

ア 理解しやすかった。 (10名)

イ ふつうだった。 (5名)

ウ 難しかった。 (2名)

## 3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？

- ・ 狂言
  - ・ 世阿弥と元雅の論争（〈隅田川〉）。
  - ・ 興味を持ったというより、能・狂言自体に興味をわき、また、知識を得ることで楽しみ方が少しわかった。
  - ・ 能の歴史
  - ・ 初めて能や狂言を見て、退屈なものなのかなと思っていたが、面白くて笑えた。
  - ・ 将軍によって、どの人が優遇されるか。いろいろな人間関係や社会的な関係が見えたこと。
  - ・ 将軍との関わりからも考えた点。
  - ・ 『風姿花伝』『年来稽古条々』の、世阿弥のストイックさ、考え方が、今の自分にもすごく響いてくるものがあった。
  - ・ DVDで実際に演目を見られてよかった。
  - ・ 能・狂言における芸能史、観阿弥・世阿弥の生涯とその後継者たちについて。
  - ・ 〈隅田川〉
  - ・ 能の成り立ちや能役者がその時々権力者によって左右されていたということ。
  - ・ 世阿弥の一生。
  - ・ ビデオで実際に能を見られたこと。
  - ・ 歴史的な流れを学ぶことができたこと。
  - ・ 本説として『伊勢物語』や『平家物語』を取り入れた作能法の部分。
  - ・ 魔多羅神。
  - ・ 本説がある作品を読んだこと。
- ### 4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？(以下抜粋)
- ・ もともと好きだったので、いろいろな狂言が見られて楽しかった。
  - ・ 一流同士（世阿弥と元雅）の争い。
  - ・ 権力者に気に入られるかどうかで全く違ってくるというところに魅かれた。
  - ・ 狂言で、言っていることがわからないところでも、何か伝わってきて笑えた。
  - ・ 各将軍の性格・政策などがはっきりわかる点。
  - ・ 今にも通じるものがあるところ。
  - ・ 観阿弥・世阿弥の能に対する改革はとて

も感心した。また、見たことがなかった能だが、〈隅田川〉はとても悲しい気持ちが伝わってきて、面白かった。

- ・ 不遇であったからこそ、様々な工夫が生まれ、能が発展していく様子がおもしろかった。
- ・ （世阿弥・元雅の論争で）どちらを支持する人が多いのか、少し気になって、インターネットなどで調べました。ストーリーも気になって、いろいろと調べて、さらに興味を持ちました。
- ・ （世阿弥の一生）時の権力者に振り回される中でも、様々な工夫をしている点。
- ・ 今まで能について学んだことがなかったので、初めて知ることばかりでした。最初に基本的な事柄を学び、次にみんなで〈隅田川〉の子方論争について話し合ったことがおもしろかったし、他の人の話を聞いてとても勉強になりました。
- ・ 能の知識は全くなかったもので、実際に映像で見ることで、どのようなものかを知ることができたこと。
- ・ 自分で訳したり、観たものを訳すことで理解が深まった。
- ・ 文学と結びついた能に興味をわいた。
- ・ （魔多羅神）猿楽のルーツとして、秦河勝などとのつながりがおもしろい。
- ・ （能に本説の）どこがとられているのかを見つけたり、狂言でも何かにかけてあるところなどがわかりおもしろかった。

## 5. 意見・要望・感想・メッセージ(略)

### 4. まとめ

1の項目については、昨年度よりもアが少なくイの割合が多くなった。また、2の項目については、圧倒的にアが多かった昨年度に比べて、イの割合が増えたことと、これまでほとんどいなかったウを選んだ学生がいたことが今年度の特徴といえる。こういったアンケートは、それぞれの年度の受講生の意欲や基礎的な知識に左右されるとはいえ、もう少しわかりやすい授業を心がけなければならないと考えている。3と4については、これまでの経験に基づき、授業に工夫を重ねた成果の現れたところであろう。今後も学生に興味を持たせる工夫をしたい。ただし、今年度は内容を盛り込みすぎて、最後が駆け足になってしまった。来年度の課題である。